

仙台稲作情報 2019 (第3号)

宮城県仙台農業改良普及センター TEL:022-275-8410 FAX:022-275-0296
<http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai> E-mail:sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

☆☆☆ 適正な追肥と病虫害防除を励行しましょう ☆☆☆

葉色、幼穂長を確認し、適正な追肥を実施しましょう。

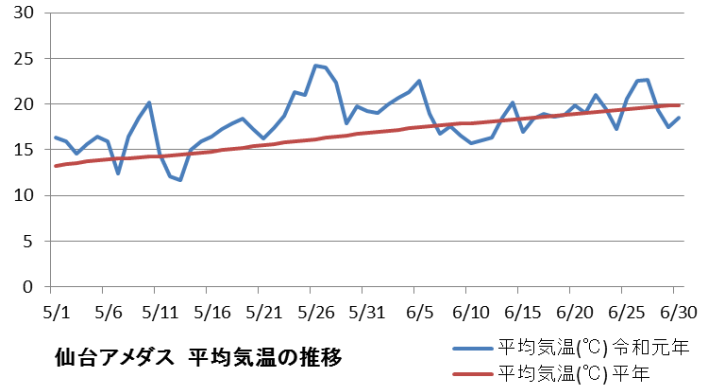
7月中旬までの畦畔の草刈りを徹底しましょう！

1. 気象概況

旬(月)別の気象データ

	平均気温(°C)		全天日射量(MJ/m ²)	
	本年	平年差	本年	平年比
5月 上旬	16.2	2.2	24.5	141%
中旬	15.7	1	23.5	144%
下旬	20.2	4.1	23	128%
6月 上旬	18.9	1.3	20.2	116%
中旬	18.3	-0.2	16.7	110%
下旬	19.8	0.5	12.4	95%

※全天日射量:放射エネルギーの量



- ・ 6月下旬の平均気温は平年並でした。
- ・ 全天日照量は5月上旬～6月中旬までの期間で平年を上回り、6月下旬は平年並でした。

6月29日から7月28日までの天候見通し(令和元年6月27日 仙台管区气象台発表)

<予想される向こう1か月の天候>

- ・ 東北太平洋側では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 向こう1か月の降水量は、多い確率50%です。日照時間は、少ない確率50%です。
- ・ 週別の気温は、1週目(6月29日～7月5日)は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目(7月6日～7月12日)は、平年並の確率50%です。

2. 生育概況

表1 主要品種生育調査結果(7月1日現在 移植栽培)

品種	地帯	場所	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(枚)		葉色(GM)		幼穂長(mm)	
			本年	前年比	本年	前年比	本年	前年差	本年	前年差	本年	前年差
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市宮城野区	46.6	95	379	79	10.1	0.1	43.6	2.4	0	0
	北部平坦	大郷町鶉崎	45.0	-	536	-	9.8	-	41.2	-	0	0
	西武丘陵	仙台市泉区	54.1	102	538	91	10.9	0.6	44.1	2.3	0	0
ひとめぼれ管内平均			48.6	96	484	96	10.3	0.0	43.0	0.7	0	0
ササニシキ	北部平坦	大和町鶴巣	48.1	101	758	137	9.9	0.1	46.1	6.5	0	0
	仙台湾沿岸	仙台市若林区	43.7	84	415	86	10.8	0.6	41.8	1.2	0.1	0.1
ササニシキ管内平均			45.9	92	586	113	10.4	0.4	44.0	3.9	0.05	0.05

※「-」はR1年から調査ほ場を変更したため、前年比較ができない箇所

表2 だて正夢生育調査結果(7月1日現在 移植栽培)

品種	地帯	場所	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(枚)		葉色(GM)		幼穂長(mm)	
			本年	前年比	本年	前年比	本年	前年差	本年	前年差	本年	前年差
だて正夢	北部平坦	大郷町土橋	47.3	107	386	130	10.1	0.7	44.9	-0.2	0	0
	仙台湾沿岸	仙台市若林区	43.5	-	359	-	10.5	-	46.9	-	0	-
だて正夢管内平均			45.4	103	373	126	10.3	0.9	45.9	0.8	0	0

※「-」はR1年から調査ほ場を変更したため、前年比較ができない箇所
 ※仙台湾沿岸のだて正夢の調査結果は6/28調査によるもの

- ・ひとめぼれ
草丈，茎数，葉数が前年並みで，葉色は前年に比べやや濃いです。生育の進んでいるほ場では，幼穂の分化が確認されました。
- ・ササニシキ
草丈がやや低く，茎数が平年より多く，葉数は 0.4 枚進んでおり，生育は 3 日程度進んでいます。葉色は前年に比べ濃くなっています。
- ・だて正夢
草丈は前年並み，茎数は前年より多く（126%），葉数は 0.9 枚進んでおり，前年よりおよそ一週間程度進んでいます。葉色は前年に比べやや濃くなっています。

3. 今後の管理

○追肥の判断

- ・葉色は今後低下することが予想されます。ほ場をよく観察し，適切な追肥を行い穂揃期の葉色維持に努めましょう。
- ・ほ場により生育が異なるので，幼穂長による生育ステージの確認を必ず行いましょう。また，葉色の期待値（表3参照）を上回る場合の追肥は不要です。
（幼穂形成始期：幼穂長 1~2mm, 出穂 25~20 日前）
（減数分裂期：幼穂長 30~120mm, 出穂 15~10 日前）
- ・追肥後一時的に稲体窒素濃度が高くなると，いもち病に対する抵抗力が弱くなるので注意が必要です。
- ・基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合または復元田の場合は，倒伏が懸念されるため，原則として追肥は行いません。

出穂前日数(日)	幼穂長(mm)	生育ステージ	外形
25	1	幼穂形成期	止葉抽出
20	2		
18	8~15		
15	30	減数分裂期	
12	80		
10	120		
6	195		
4	205		
2~1	220		

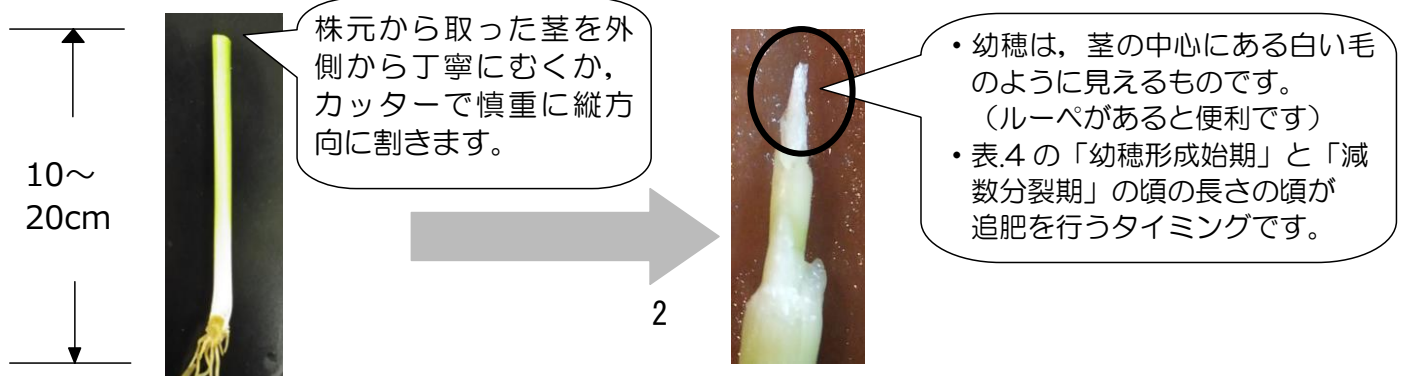
表3 幼穂形成期及び減数分裂期の葉色の期待値と施肥量の目安

品種名	幼穂形成期(幼穂長1~2mm)		減数分裂期(幼穂長30~120mm)	
	GM葉緑素計の葉色の期待値	施肥量(窒素成分量)(kg/10a)	GM葉緑素計の葉色の期待値	施肥量(窒素成分量)(kg/10a)
ひとめぼれ	38~40	1	35~37	1
ササニシキ	34~36		32~34	1~1.5
だて正夢	39~43	0(生育量不足の場合1)	35~39	2(幼形期に追肥した場合1)
金のいぶき	33~35	1	30~32	1
つや姫	35~37		31~33	2
まなむすめ	35~37	2	36~38	

だて正夢の追肥

- ・減数分裂期に窒素成分で 2kg/10a を施用する。
- ・有効茎数の不足が予想される場合には，幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で 1kg/10a ずつ施用する。

◆幼穂長を測って，「生育ステージ」を確認しましょう



○水管理

間断かんがい（穂ばらみ期） → 浅水（出穂・開花期） → 間断かんがい（登熟期）

- ・中干しは、遅くとも幼穂形成期前に終了しましょう。
- ・根腐れが発生しやすく倒伏の危険性がある水田は、有効茎を確保する頃から落水期まで、飽水管理により、根の健全化と茎の充実を図りましょう。
- ・低温が予測される場合には幼穂を保護するためにできる限りの深水管理を実施しましょう。

○病害虫の防除

斑点米カメムシ類対策

水田雑草防除（7月上旬まで）

- ・イヌホタルイ、ノビエ等の水田雑草は、斑点米カメムシ類（特にアカスジカスミカメ）の水田への侵入や斑点米被害を助長するので、雑草の穂が出る前の7月上旬までに除草を行ってください。

水田周辺の草刈り（7月中旬、出穂10日前まで）

- ・水田周辺に牧草地や雑草地がある場合、斑点米カメムシ類の増殖を抑制するため、幼虫主体の7月中旬頃に草刈りを行ってください。
- ・水田畦畔の草刈りは、出穂期前後に行くと水田内に斑点米カメムシを追い込むので、水稲の出穂10日前までに終わってください。



薬剤防除（出穂期以降）

- ・薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。
- ・イヌホタルイ、ノビエ等が発生した水田で除草ができなかった場合は、1回目の薬剤散布時期を「出穂始から穂揃期」に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させ被害を軽減できます。
- ・草刈りや薬剤散布は広域的に実施すると効果が高いため、地域一斉の防除に努めましょう。

コバネイナゴの防除

- ・中齢幼虫（体長1.5cm程度）になると本田に侵入します。齢が進んでから薬剤散布を行うと防除効果が低下するので、発生が多い場合は本田侵入盛期（予想：7月11日～15日）を目安に防除を行ってください。

いもち病対策

- ・アメダス資料による感染好適日の推定では、6月第6半旬に感染好適条件が広域的に出現しています。
- ・今後、箱施用剤や予防粒剤の効果が低下し始める時期です。ほ場をよく観察し、葉いもちの発生が確認された場合は、直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。特に、穂いもちの重要な伝染源となる上位葉でのいもちの発生には十分注意しましょう。
- ・穂いもちの予防粒剤は出穂30～5日前に使用する剤が多いので、生育状況（幼穂長等）の観察や出穂期の予測に基づき、適期に散布しましょう。
- ・粉剤や液剤などの茎葉散布剤による穂いもちの防除は、1回目の防除を出穂直前に2回目を穂揃期に行い、葉いもちの発生が多く、穂いもちの多発する恐れがある場合や出穂期間が長引く場合には3回目を穂揃期の7～10日後に実施しましょう。



葉いもち病斑